

「香港中文大学サマースクール 2013 参加報告書」

京都大学文学部3年 林明香里

(1) 読み書きよりも聞いて話すことに重点をおいた授業のおかげで語彙が増えたので、ネイティブと話がしやすくなった実感がある。街の人々の言葉と学校で習う言葉は異なっていたので、人々が普段どんなことを考えて生活しているのかまでは分からなかったが、自分が話しかけた言葉が通じることは自信になった。

(2) 第2週から病気になり授業に出席できない日もあり、かなり苦しかった。体調を考慮して途中帰国せざるを得なかったのは悔しかった。海外では自分でも予想外のことが起こりうるのだと身をもって実感した。周囲の人達と言葉が通じなくても日々心配され気遣ってもらったことが大変ありがたかったので、本当の気持ちは言葉の壁を乗り越えるのだと感じた。大切なことを学ばせてもらった。

(3) 語学研修を目的として留学した。授業は、語彙を増やす点に主眼が置かれていたのが大変満足だった。新出単語の1つ1つを先生方が沢山の例文を用いて教えてくださったので、単なる丸暗記にならず記憶に定着しやすかった。宿題も多く、ただの海外旅行とは違って語学留学として充実していた。

(4) 海外では体調を崩しやすいと分かり、自分が今後また海外に行けるかどうかは不安である。しかし、来日する外国人の中にも旅行中にトラブルが発生して困るような人がいたときに、自分が少しでもサポートできるような立場になりたいと感じた。これまでは、国際交流をしたければ自分が海外に行くしかないと思っていたが、自国の中でもできることがあるかもしれないと発見したことは大変大きい。